

第5回アジア原子力協力フォーラム (FNCA)
コーディネーター会合 (CM) 記録 (仮訳)
2004年3月3日～5日 於東京京王プラザ

2004年3月5日

1. 第5回コーディネーター会合 (CM) が2004年3月3日から5日にかけて、日本の東京で、内閣府と文部科学省の共催で開催された。
原子力委員会町末男委員 (FNCA 日本コーディネーター) が歓迎挨拶を述べた。この会合には FNCA 諸国であるオーストラリア、中国、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナムの代表とオブザーバーとして IAEA の代表者一人が参加した (添付資料1)。この会合のプログラムを添付資料2に示す。
2. セッション1では、町末男 FNCA 日本コーディネーターが2003年度の活動と沖縄での第4回 FNCA 大臣級会合の概要を報告した (添付資料3)。同氏は、実施中の活動の重要な実績を具体的に示した。第5回コーディネーター会合はこの報告を了承した。
3. セッション2で、FNCA コーディネーターと代表者は FNCA のプロジェクトの進展と将来計画についてカントリー・レポートの発表を行った (添付資料4)。
4. セッション3では、「アジアの持続可能な発展のための原子力エネルギーの役割」を検討するパネルと「医療での PET (陽電子放出断層撮影法)、サイクロトロンならびにラジオアイソトープの利用」の2つの新規提案が発表された (添付資料5)。

A. 町博士はアジア地域のエネルギー事情に関する統計的な数値を用いて、これまでの経緯とこの調査の重要性を説明し、「アジアの持続可能な発展のための原子力エネルギーの役割」を検討するパネルの概要と活動計画を紹介した。それによると、パネルではエネルギー源別生産コストと温室効果ガス (GHG) 排出の削減効果を比較することで、20年間から50年間の長期エネルギー計画を研究する。原子力発電の導入の可能性や非発電利用の有用性も検証される。パネルの第1回会合を2004年の8月から11月の間に日本で開催することが提案された。
第5回コーディネーター会合は、パネルでは国際原子力機関 (IAEA) /ア

ジア地域原子力協力協定（RCA）の関連データ、ソフトウェア、専門知識の活用を考慮することを提言した。また、FNCA と RCA が相乗効果や補完関係を強化すべきことを改めて確認した。

第 5 回コーディネーター会合は、エネルギー安全保障や地球温暖化に関連した原子力エネルギーの役割、原子力発電計画を実施するメカニズム、原子力発電に対するよりよい理解と受容を得るための広報活動といった課題を、パネルで討議することに合意した。

第 5 回コーディネーター会合はパネルの活動目的を支持することを強調した。戦略的なエネルギー計画は、近い将来の原子力発電計画をもたない国も含め、すべての国にとって重要である。町博士はまたパネルの参加者として、原子力部門だけでなく、環境やエネルギーの専門家も必要であると強く指摘した。

B. マレーシアの Mohamed Ali Abdul Khader 氏は、新規プロジェクトである「医療での PET（陽電子放出断層撮影法）、サイクロトロンならびにラジオアイソトープの利用」について発表した。すべての参加国が PET とサイクロトロンの技術に関する相互の有益な経験や情報を共有すべきだと期待される。

マレーシアは、プロジェクト実施のためにより詳細な活動計画を作るよう要請された。第 5 回コーディネーター会合はこの提案を承認し、このプロジェクトは 2005 年度に開始予定となった。

第 5 回コーディネーター会合は、オーストラリアや中国、日本、韓国、フィリピンといった PET とサイクロトロンをすでにもっている国がその経験を、同様の施設を近い将来導入する予定である国々と共有できることに留意した。また第 5 回コーディネーター会合では、PET とサイクロトロンのメンテナンスの重要性を強調した。

5. セッション 4 では、町博士が、FNCA 活動の効率的な実施について発表した同氏は、FNCA プロジェクトを実施するための日本の FNCA 運営体制を概説した。同氏はまた、Tc-99m ジェネレーター用の Mo-99 吸収 PZC カラムの利用、環境モニタリングのための中性子放射化分析測定の利用、およびバイオ肥料の利用の栽培農家への拡大といった、社会・経済的效果を高めるために取り組む必要のある特定の課題について言及した。

「アジアの持続可能な発展のための原子力エネルギーの役割」のパネル実施については、FNCA コーディネーターが環境政策とエネルギー計画の行政官と調整して緊密に協力することを要請した。

第5回コーディネーター会合では、FNCAプロジェクトの評価、とくに活動状況指標と評価手順についても議論した。

A. オーストラリアの Dr. Easey は、活動から直接に発生することからアウトプットを評価すべきであると指摘した。結果はアウトプットから派生するが、それらをコントロールすることはむずかしい。町博士は、内部評価を客観的に行なうことを提案した。中国の Dr. Huang は、同じ分野の他の専門家も含むべきと助言した。

B. RCA コーディネーターの Dr. Dias は、IAEA/RCA は論理的な「枠組マトリックス」とプロジェクトの設計段階でのエンドユーザの参画を適用していることを紹介した。

C. Mr. Adnan は、すべての FNCA/IAEA プロジェクトは関連のある国家プロジェクトの重要な一部分であるべきと付け加えた。

D. Dr. Easey は、原子力技術の費用対効果とその有効性に関する適切な情報が、原子力技術利用の普及に非常に重要であると述べた。同氏は、費用対効果についての情報を長年見つけることができないでいる状況を紹介し、FNCA のプロジェクトはこの点を考慮すべきであると指摘した。

Dr. Dias が IAEA/RCA 活動の概略を発表した。第5回コーディネーター会合は、IAEA/RCA と FNCA の活動間の相乗効果と密接な結びつきの重要性を認識した。

6. セッション5では、8分野の FNCA 活動が議論ならびにレビューされた。第5回コーディネーター会合は、実施中のプロジェクトの活動と将来計画を承認した。また第5回コーディネーター会合は、添付資料6に示す FNCA 枠組下のワークショップおよび会合の仮スケジュールと開催地を合意した。

それぞれのプロジェクトに関する主な討議内容と合意事項は添付資料7に示される。添付資料8に示される3ヵ年活動計画も承認された。

7. セッション6では、ベトナムの代表から、2004年11月23日から24日にベトナムのハノイでの第5回 FNCA 大臣級会合開催がアナウンスされた。同会合は「アジアでの原子力人材養成に関する協力」の基調テーマで開催され

る予定である。FNCA 各国の人材交流と共同活動を可能にし、地域での人材養成への FNCA 各国の貢献を促進することを目的としたネットワークを構築することが提案された。

8. 閉会セッションでは、各国の代表によりコーディネーター会合の議事録が採択された。文部科学省研究開発局原子力課の信濃正範国際原子力協力企画官が閉会の挨拶を行い、第 5 回 FNCA コーディネーター会合は正式に閉会した。

9. 施設訪問

2004 年 3 月 5 日に、放射線医学総合研究所への施設訪問が行われ、PET、サイクロトロン、重粒子線がん治療装置といった施設が各国代表に紹介された。